

## 主 題：古い着物を着ないでください

## 聖書箇所：エペソ人への手紙 4章17-24節

神は、私たちが神の前に敬虔に忠実に歩んでゆこうと願っていることを望んでおられます。神に喜ばれることがまた、私たちにも何よりの喜びであることを知っているのに、願ってもできないと私たちは悩みます。パウロはエペソのクリスチャンたちに励ましのことばを与えました。

先週に続いて、神に喜ばれる歩みをする秘訣を学んで行きましょう。17-19節で異邦人の歩みを見てきました。自己中心であり、自分に仕える者であり、自分を神とする者でした。これは救われる前の私たちの歩みでした。20節からは「どのように歩むべきか」を肯定的な面で教えています。

## 2. 救われた者としてどのように歩むべきなのか

それは「新しい着物を着る」ことです。

◎何の根拠によって新しい歩みができるのかが20-21節に書かれています。20節に「…このように」とありますが、これは異邦人の歩みを指しています。そして、「キリストを学ぶ」というのは、キリスト自身との個人的な関係で、救いのことです。「救いについて学ぶ」ということです。キリストにある生き方は異邦人のそれとは全く違うものです。異質なもののなのです。21節に「ただし、…ならばです。」とは、「救われているのなら」という不確かなことを言っているのではなく、「確かにあなたは本当に救われているのだから」と言っているのです。神はあなたを救い、和解を与え、家族としてくださった、これは真理であるというのです。キリストを学び—救われ—、正しいことを知り、教えられたのです。21節にある「真理」には冠詞がついていません。これはキリストの内にすべての真理がある、ということです。それを学んだ者は、キリストに倣う者として歩もうとするはずです。

◎どのように歩いていくのかが、22-24節に書かれています。真理を教えられたのだから、変えられた生き方をするようにと言います。二つの点から見ましょう。

## (1) 救われた時に起こること

## a) 脱ぎ捨てる 22節

原文では、この22節に書かれていることは以前に起こったことだとしています。クリスチャンは神を知らない人と同じようには歩まないのです。なぜなら、彼らの内にはその人たちと同じ性質はないからです。「脱ぎ捨てる」とは、破壊してとか、燃やして、というかなり強いことばです。17-19節にある古い自分を脱ぎ捨てるのです。滅びて行くような道徳的にも霊的にも頹廢した古い人です。

## b) 新しい人を身に着た 24節

救われた私たちの内には、神を喜ばせようとする新しい人があります。私はキリストと共に十字架につけられたのです。ローマ6:6「私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減びて、私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。」、同じ8節には「もし私たちがキリストとともに死んだのであれば、キリストとともに生きることにもなる、と信じます。」とあります。もう、罪の奴隷ではなくなったのです。そして、キリストとともに死に、キリストとともに生きる者とされたのです。新しいものを身にまとったのです。エペソ4:24には「神にかたどり造り出された」とあります。これは、神が人を創造されたとき、「われわれに似るように、われわれのかたちに、人をつくろう。」(創世記1:26)と仰せられた、そのことを指しています。その人は義をもって聖いのです。義とは、他の人に対して正しくあることです。聖は神の前に正しくあることです。神は古い人の代わりに新しい人を与えてくださったのです。4:25以下にその生き方が書かれています。

## (2) どのように変わることができるのでしょうか

全く新しくされたのです。修復ではありません。しかし、私たちはなお古い性質を身につけています。それは罪のゆえです。このような私たちはどうすればいいのでしょうか？

いくつかのみことばを見ましょう。エペソ4:28「盗みをしている者は、もう盗んではいけません。かえって、困っている人に施しをするため、自分の手をもって正しい仕事をし、ほねおって働きなさい。」、1ペテロ3:9「悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。あなた

がたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。」、3ヨハネ11「愛する者よ。悪を見ならわないうで、善を見ならいなさい。善を行なう者は神から出た者であり、悪を行なう者は神を見たことのない者です。」、ヘブル10:25「ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますさうしようではありませんか。」、ガラテヤ5:22-23「しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません。」、また、マタイ16:24「それから、イエスは弟子たちに言われた。『だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。』」

私たちは、長い習慣によって身につけている古い性質を捨て、新しい性質に代えてゆくべきです。そのためには努力も必要です。みことばの学びとその実践です。それは聖霊の働きによることです。